

目白大学社会学部
地域社会学科
特別公開講演会

平成29年1月28日(土)

■時間 14:00~16:30(開場13:30)
■会場 10号館 9階 10900番教室

.....
参加無料 / 申込不要
どなたでも入場できます
.....

■開会あいさつ 14:00

目白大学社会学部地域社会学科 学科長 堀内直哉

■特別公開講演

14:10 ~ 15:15

コーヒー経済学入門

— 日本の消費市場と国際協力 —

社会学部地域社会学科 教授 廣田政一

15:25 ~ 16:30

新聞を読まない大学生

— 問題発見能力の低下へ大いなる危機感 —

社会学部地域社会学科 教授 松本逸也

第9回 地域フォーラム

テーマ「明日の日本と世界をつなぐもの」

— 国際協力・大学教育の二つの現場から —

資金援助するだけが世界貢献か。今見ているネット情報は真実か嘘か。当たり前のように金儲けに奔走し、さまざまな情報の波に吞まれている日本人は、このままで良いのだろうか。日本と広大な世界をつなぐ新しい懸け橋は、当たり前からの逸脱から始まるのかもしれない。二人の大学教授が最終講義としてその当たり前を斬る

主催：目白大学 社会学部地域社会学科
共催：目白大学大学院 国際交流研究科
協力：(株)アム・プロモーション「ミュゼ」編集部、(株)CIA

お問い合わせ先

TEL.03-5996-3158 (学科直通)
URL <http://www.mejiro.ac.jp>

 目白大学

開催趣旨

戦後の焼け野原から世界屈指の経済大国へと駆け上がった日本。いま、技術と信頼、終身雇用制で築いてきた日本の豊かさが揺らいでいる。東西冷戦の終結とベルリンの壁崩壊がもたらした価値観の流動化、グローバル化で目まぐるしく変わる世界経済、絶えることのない対立や紛争、格差社会の拡大と右傾化する世界政治、加えて地球規模の環境変化のなかで、日本のいまの閉塞感ともやもや感はいったい何だろう。明日の日本と世界をつなぐために、国際貢献として今何が求められているのか。複雑化する情報のなかで未来を担う大学生に今が必要なのか。20世紀後半の激動期に世界を飛び回ってこられた二人の大学教授が、この日本のもやもやを解決するヒントを最終講義で熱く語る。

「黙って聞いているだけでは終わらない」。

講師紹介



廣田 政一 (ひろた まさかず)

1946年(昭和21)東京都生まれ。

慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程修了。経済学修士。

協和銀行(現りそな銀行)、海外経済協力基金(円借款担当課長)、国際協力銀行、米州開発銀行、名古屋大学客員教授等を歴任。目白大学人間社会学部地域社会学科長、目白大学大学院国際交流研究科専攻主任を経て、現在、目白大学・目白大学大学院教授。日本サラマンカ大学友の会理事、文部科学省「地域研究推進事業」委員・評価主査、練馬区行政評価委員、外務省・JICA「国別援助研究会」学識経験者委員。

国立サラマンカ大学(スペイン)で「日本経済」を講義し、マドリッド商工会議所主催で「アジア経済事情」の講演をする。専門は国際経済学、観光経済学。研究テーマは日本市場におけるフェアトレード商品の経済実証分析と国際貢献。授業科目は「公共経済論」「国際協力論」「観光学総論」「やさしい観光開発」「ラテンアメリカ地域研究」を担当。著書に『地球公共財』(1999)、『国際開発経済論』共著(2003)、『日米経済関係論』共著(2006)がある。趣味はマラソン(東京フルマラソン2013・2014年完走)とヴァイオリン。



松本 逸也 (まつもと いつや)

1946年(昭和21)静岡県生まれ。

静岡大学教育学部卒業。朝日新聞編集委員、写真部長を経て、目白大学短期大学部教授、目白学園中学・高等学校校長(現、目白研心中学・高等学校)、目白大学学生部長を歴任。現在、目白大学・目白大学大学院教授。

日本写真芸術学会、野外文化教育学会、公益社団法人青少年交友協会参与。研究テーマはアジア、マスコミ、難民問題、辺境論、日本と朝鮮半島。授業科目は「アジア太平洋地域諸国論」「現代社会論」「エスニックメディア論」「現代アジア論」「表象文化論」を担当。著書に『仕組みれた湾岸戦争』(1991)、『シヤムの日本人写真師』(1992)、『幕末漂流』(1993)、『世紀末亜細亜漂流』(1994)、『脱亜の群像』(2004)、『一極集中報道』(2006)、『東アジアの「海道」をゆく』(2008)がある。趣味は歴史の舞台探訪、歴史写真収集、映画鑑賞。

■ 最寄駅からキャンパスまでのおよその時間

- ・西武新宿線「中井」駅より徒歩8分
- ・都営大江戸線「中井」駅より徒歩8分
- ・都営大江戸線「落合南長崎」駅より徒歩10分
- ・東京メトロ東西線「落合」駅より徒歩12分

※学内には駐車場がございません。お車でのご来校はお控えください。

地域社会学科の学び

地域社会学科では多彩な専門領域から学生自らテーマを見つけ、その課題解決に向けて取り組むカリキュラムを展開しています。学内での学びはもとより、学外での「フィールドワーク」を通じて、観る・聴く・考える・書く・話すといった社会で生きる力を発揮しながら問題解決の糸口を探ります。

現代:身近な問題から、現代社会へのアプローチの方法を見につけます。

国際:世界のさまざまな事象に注目し、社会の仕組みを探ります。

地域:都市やコミュニティが抱えている今日的な課題を理解し、掘り下げます。

